

# 衣生活に関する調査研究

—— 学生 の 意 識 ——

酒 井 清 子 ・ 村 瀬 道 代

## The Research and Investigation of Our Clothing Habits

Students' Consciousness

Kiyoko SAKAI and Mitiyo MURASE

### 緒 言

現在の学生の衣生活に対する考え方を把握するため、今夏流行したと思われる服種を中心に、服装に関する学生の意識・実態調査を行なったのでその結果を報告する。

### 調 査 方 法

#### 1. 調査時期

昭和53年7月～8月の2ヶ月

#### 2. 調査対象

名古屋女子大学短期大学部家政科学生 450 名

#### 3. 調査内容

##### 1) デザインの説明

今夏はとても奇抜な服装が目立ち、服装に対する常識を越えた着装なども見うけられたが、特に流行したと思われるデザインをスタイル画に表現し調査を行なった。

デザイン1番、Tシャツとジーパン、デザイン2番、キャミソール型ブラウスとティアード・スカート（キャミソール型とは、婦人用袖なし下着のように肩からひもでつった型）、デザイン3番、ドロースtringのブラウスにギャザースカート（ドロースtringとは、引き締めひもの事で、このデザイン画では袖に応用してある）、デザイン4番、パフ・スリーブのブラウスとハーレム・パンツ（ハーレム・パンツとは、だぶだぶのパンツの事で、足首のあたりにギャザーをとり、ぴったり締めたもの）、デザイン5番、ランニング・シャツとキュロット・スカート（キュロット・スカートとは、ズボン式に分かれた膝位丈のスポーティーなスカート）、以上1番から5番のデザイン5組のスタイル画（図1-1・図1-2）と図3に示されたタンク・トップといわれるデザインのスタイル画2つを学生の前に常時提示し、直接口頭で質問をし、それぞれ用紙に自由回答で記入する方法を取った。用意した質問に対する答以外にも有意義な反応が見られたので、それもデーターとして採用した。また調査対象者の中から無作為に10名を選び被服重量について、その場で計測をさせた。

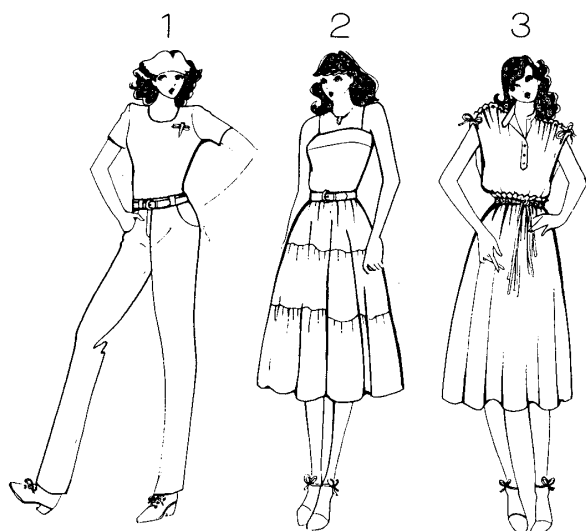


図 I-1 デザイン

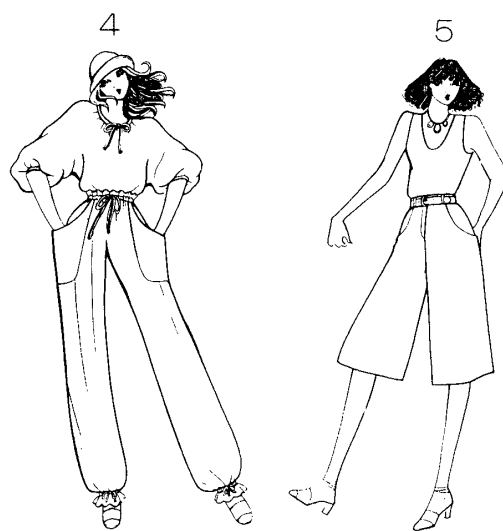


図 I-2 デザイン

## 2) 調査項目

- (1) デザインに対する意識
- (2) 流行に関する一般的意識
- (3) 所持状況
- (4) 着用状況
- (5) 購入状況

## 調査結果および考察

### (1) デザインに対する意識

#### a. デザインの好み

デザインの好みについて、デザインの1番から5番の中から、学生に一番好むデザインを選ばせた結果、3番のデザインを39.2%のものが好み、つぎに2番26.4%、4番24.4%で、5番は0.6%と、もっとも少数であった。

#### b. 用途別デザインの選択

用途別に通学服、リゾート、町着の3種類に分け、5組の中からデザインの一番良いと思うものを選ばせた。その結果は図2に示すように

通学服：通学服としては3番のデザインを73.4%のものが良い、つぎに1番20.7%、4番2.5%で、2番、5番は少数であった。

リゾート：リゾートとしては2番のデザインを34.8%のものが良い、つぎに1番22.9%、4番18.5%で、3番、5番は少数であった。

町着：町着としては3番のデザインを57.9%のものが良い、つぎに4番22.4%、2番13.8%

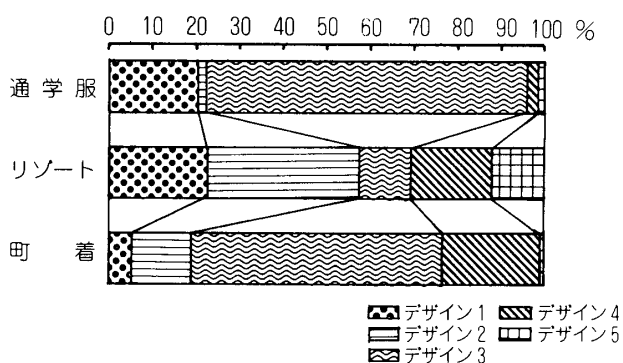


図2 用途別デザインの選択

%で、1番、5番は少数であった。

通学服、町着としてはいずれも3番のデザインが良く、リゾートとなるとやはり気分的な気楽さから、2番のデザインを良いというものが多数であった。

#### c. デザインのイメージ

デザインのイメージについて、デザイン1番から5番のスタイル画から受けるイメージを聞いたところ、1番のデザインでは46.5%のものが活動的をあげ、つぎにスポーティー38.6%、気楽さ7.3%であった。2番のデザインでは余り大差はなく、女らしさ17.7%、かわいらしさ15.6%、涼しさ14.6%とわずかな差であった。3番のデザインでは、女らしさ22.5%、平凡な感じ11.1%、落ち着いた感じ9.4%の順であった。4番のデザインでは、流行（ファッショナブル）28.7%、かわいらしさ20.3%、活動的15.7%の順にあげている。5番のデザインでは、活動的39.4%、つぎにスポーティー21.2%をあげているが、その反面5番のデザインを好まないと答えた学生が約10%もいた。

#### d. タンク・トップに対する意識

タンク・トップといわれるデザインが、流行服として大変人気があり学生の中でも暑い夏期には利用されたと思われたので、そのデザインを図3によって示し、タンク・トップに対する意識を調査した。まずタンク・トップのデザインの説明をすると、タンク・トップとは、男子の着るアンダーシャツに似た上衣で、衿はUラインで深めのアームホール、肩の部分がランニング・シャツ式になっている。タンクとは水槽のことで、ダーツなどで型づけられタンク状に筒形になっているデザインでこの名がついたのである。図3の(イ)・

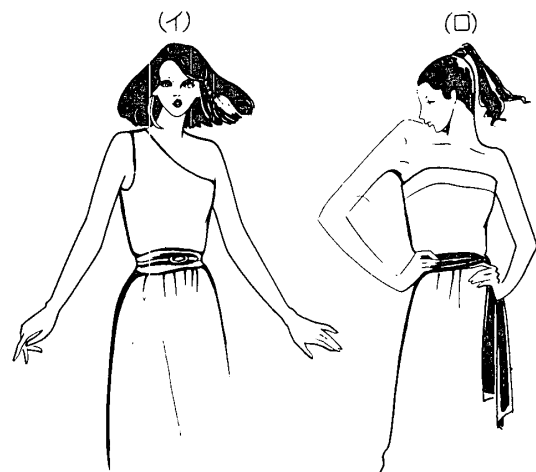


図3 デザイン

(ロ)のデザインはタンク・トップであるが別名

(イ)は、ベア・トップ（片方の肩をむきだしにしたスタイルで、ワン・ショルダーである）、(ロ)は、ベア・トップ、又はストラップレスといわれる、(イ)・(ロ)共に肩を露出した奇抜なデザインである。ベア・トップとは、バストから上の胸・肩・背部などを露出するの意味がある。このデザインはニューモードで、大変奇抜で余りにも気楽すぎる難点もあるが、暑い夏期には場所を考えて着用すれば重宝がられるデザインである。調査の結果、多くの学生はリゾートには大変良いと答えているが、実際には目的・場所を考えて着用していないものが多い様に推察された。

#### 2) 流行に関する一般的意識

##### a. 流行服一般の着用について

流行服一般の着用に対する学生の意識傾向・関心度を知るためにつぎのような質問を行った。流行の服はある程度取り入れたいか。流行の服が自分に似合うと思えば取り入れたいか。流行の服だからといって、むやみに取り入れるのは良くないと思うか。流行にはまったく無関心か。これらの質問に対して学生の回答はつぎのようである。流行に対する関心はあるが学生の身分では流行服は取り入れない。また自分に流行の服が似合うか不安だから流行の服は取り入れない、と答えた学生が大多数であった。

#### b. 今夏の流行服の着用について

デザイン画に見られる流行の服1番から5番のデザインについて、着用したいのか、着用したくないかの質問に対しては、デザインに見られる流行服は余り着用したくないが圧倒的に多く、デザインが自分に似合えば着用すると答えた学生は少数であった。

#### 3) 所持枚数

1番から5番のデザインの服種について所持枚数を調べたところ、各デザインとも持っていないものは1.7%とわずかである。いずれかのデザインの服を1枚でも持っているものは98.3%と圧倒的に多い。デザイン別に一番多く持っているものを挙げさせた結果は、デザイン1番が36.2%、3番30%、2番16.3%、5番9.6%、4番6.2%の順に挙げているが、先に2)流行に関する一般的意識、a, b, の質問の項目で回答している学生の傾向として流行服は良くないといっていることと矛盾する点もあるが、それは一人の学生の所持枚数としては少ないが、やはり何らかの型で流行服を購入しているのではないかとと思われる。

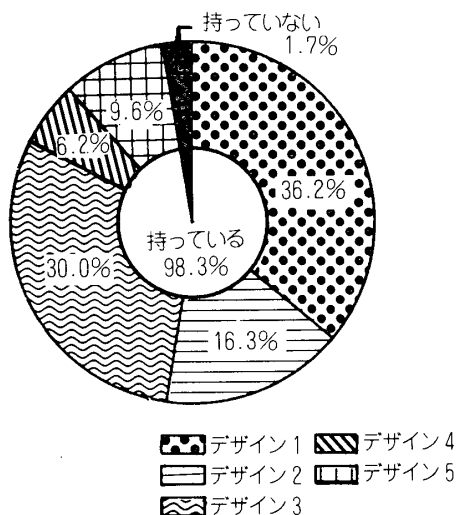


図4 着用時の度合

デザイン画にも見られるようにTシャツ形式の組み合わせが多い。そこでTシャツについてふれてみると、Tシャツは従来シャツ的感覚でしかとても考えられなかったスタイルが、今夏、若者・学生の間で大変人気のあるスタイルとなった。その理由として、肌ざわり、動きが自由（機能性に富む）、気楽さ、洗濯が簡単、価格が安いなどの点で夏期の衣料（上衣）としてTシャツが大変利用され、好まれたのではないと思われる。

#### 4) 着用状況

##### a. 着用時の選択 I

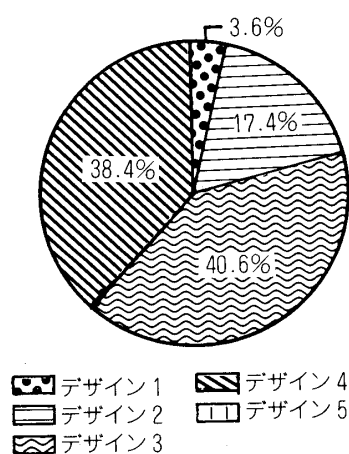


図5-1 着用時の選択 I

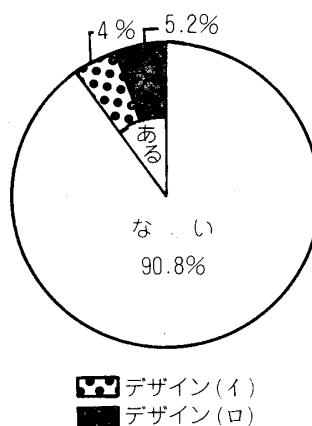


図5-2 着用時の選択 II

1 番から 5 番のデザインについて、もっともよく着用するデザインを選ばせた結果は、3 番のデザインが 40.6% と多く、つぎに 4 番 38.4%、2 番 17.4%、1 番 3.6%、5 番 0% の順位である。3 番のデザインについては、組み合わせが出来大変多様性に富むという点をあげ、4 番のデザインについては、流行服だから一度着てみたいという衝動にかられた学生が意外に多かった。

#### b. 着用時の選択Ⅱ

デザイン図 3 に示す(イ)・(ロ)のタンク・トップのスタイルを着用したことがあるのかの質問に対しては、着用したことがあると回答したものは 9.2% と少数で、着用したことのないものは 90.8% と圧倒的に多い。その理由として、学生の立場を考え、服装に対するデザインを決定するのではないかと考えられた。着用したいものの%はわずかであったが、その理由を調べると、デザイン(イ)は 4%、デザイン(ロ)は 5.2% で、わずかに(ロ)のデザインが多い、これは(イ)のデザインがワンポイントのため、大変奇抜すぎるのではないかと考えられる。

#### c. 色彩の選択

上衣として着用している T シャツの利用者が大変多かったので、T シャツの色彩について調査した。どんな色彩の T シャツを一番多く持っているかという質問の結果、白と答えたものの 20.7%、黒 14.4%、黄 10.5%、赤 7.5%、紺 5.7%、ブルー 5.5% の順位で、その他の色彩としては、ピンク、ベージュ、グリーン、オレンジがわずかにみられた。色柄、特に配色についてはつぎのようである。赤・白の組み合わせが一番多いと答えたものが 18.8%、青・白が 7.3%、ブルー・白が 5.8%、黄・白が 5.8% の順位で、その他の配色としては、紺・白、黒・白、ピンク・白の組み合わせで、白を基調にしている組み合わせが多い。またその他の配色のなかにブルー・黄などの組み合わせもわずかにみられた。

#### d. 下着について

下着について調査をしてみると、1 番から 5 番のデザインを着用する場合の下着の着用状況は図 6 に示す如くである。1 番から 5 番のデザインの服種において、着用する場合の下着の種類としては、ブラジャー、つぎにガードル、パチコートに着用が多く、一般的感覚でいわれている下着、スリッパの着用率は少数である。

上衣の土台ともなる下着の組み合わせ状況についてデザイン別に調査した結果は、つぎのようである。

◎ デザイン 1 番……①ブラジャー 98%、

②ガードル 26.7%、③スリッパ着用者は 0.7% と少数である。

◎ デザイン 2 番……①ブラジャー 90%、

②パチコート 84.9%、③ガードル 22.9%、④スリッパは 0.2% と少数である。

◎ デザイン 3 番……①ブラジャー 83.6%、②パチコート 38.2%、③ガードル 24.4%、④スリッ

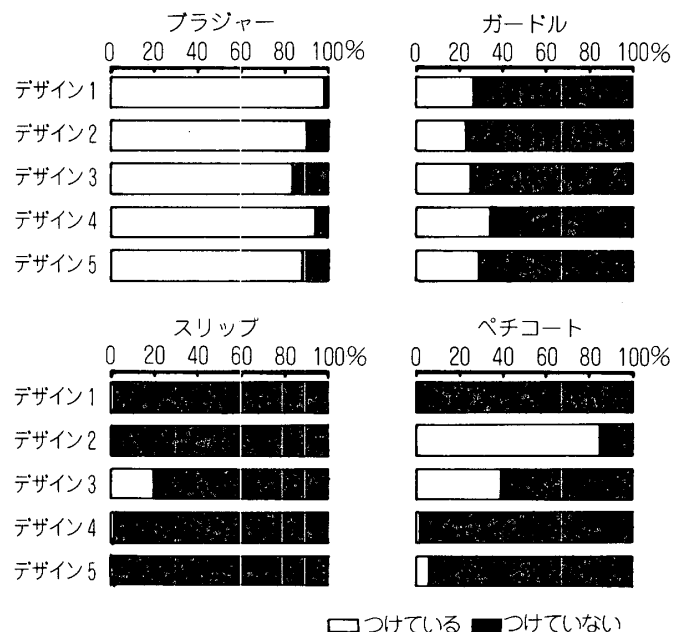


図 6 下着の着用状況

プ19.3%，とデザイン1番・2番に比べてわずかであるが多い。

◎デザイン4番……①ブラジャー94.2%，②ガードル34.7%，③ペチコート1.8%，④スリッ  
プは0.9%で少数である。

◎デザイン5番……①ブラジャー87.6%，②ガードル28.4%，③ペチコート5.1%，④スリッ  
プ0.7，⑤ブラスリップ0.2%の順である。

下着の組み合わせ方として、ショーツは全員のもものが着用している。ブラジャーは約90%の  
ものが着用しているが、なかでも少数のものはブラジャーを着用していなかった。ガードルは  
各デザイン共30%から20%のものが着用している。デザイン2番・3番のスタイルでは、ペチ  
コートを着用しているものが多い、これはデザイン画でもわかるようにスカートのゆるみが多  
い理由と同時に、スカートのシルエットを良くするためペチコート利用者が多いのではないか  
と思われる。スリッパの着用者は、いずれのデザインにおいても少数のものしか利用者はいな  
い。

#### e. 被服重量

被服を着用する上に大変意義のあるものの一つとして重量があげられる。そこで被服重  
量の成人（20才～50才平均）について、被服衛生学の図書「最新被服科学シリーズ5」のP75、  
第6章、被服人体への影響、被服重量表6—2被服重量の推移を参考にした。この表から成人  
の重量成績を比較したところ近年、保温効果、被服重量の軽量化がみられた。

流行服に対する意識傾向と同様被服重量に  
についても調査し結果今回調査対象として学生  
の人数450名の中から無作為に10名を選び、  
7・8月の時期に短大女子学生の被服重量を  
測定した。測定項目として、上半身・下半身  
・くつ下類と、総重量に分け、学生が着用し  
ている被服の重量を測定させた。測定器具と  
して棒ばかりを使用させた。測定平均値を検  
討し、表I 1950年代前半に報告されているも  
のと比較した結果、7月の測定結果では、上  
半身188g，下半身311g，くつ下類19g，  
総重量518gで、1950年代の夏期平均850g  
に対してかなりの軽量である。また1970年代  
の夏期平均と比較すると73g重い。さらに8月の測定結果では上半身191g，下半身212g，  
くつ下類17g，総重量420gで1970年代の夏期平均と比べても25g軽量である。

本年（1978年）の7・8月の気温は例年に比べて暑い気候であった。特に重い被服を着用す  
ることは疲労も加重され、被服類は軽い重量の被服を着用することが大変望ましい。

#### 5) 購入状況

##### a. 購入時の目安

既製服を購入する場合、何を一番参考にするかという質問の結果はつぎのようであった。  
ファッション雑誌，母親の助言，友人の助言，自分自身，の順位となっている。1位のファッ  
ション雑誌の中でどんな雑誌をもっとよく利用するかを調査したところ，服装雑誌30%，そ  
の他の雑誌，週刊誌についてどんな雑誌をもっともよく利用するか，その雑誌名を挙げさせた

表I 被服重量の推移

(g / 1人当り) 成人

| 季 節 | 性 | 1950 年 代 前 半       |       | 1970年 |
|-----|---|--------------------|-------|-------|
|     |   | 和服・洋服別             | 平 均   |       |
| 夏   | 男 | 和 950<br>洋 1,300   | 1,125 | 857   |
|     | 女 | 和 1,200<br>洋 500   | 850   | 445   |
| 冬   | 男 | 和 2,000<br>洋 3,000 | 2,500 | 2,202 |
|     | 女 | 和 3,000<br>洋 2,200 | 2,600 | 1,499 |

ところ、図7に示したように1位ノンノ41.2%、2位アンアン23.3%、3位女性自身7.1%、4位セブンティーン5.7%、5位女性セブン5.4%の順であった。このように週刊誌利用者はかなりの数であり、価格が安い、気楽に購入出来る、という理由をあげている。

#### d. 購入枚数

今夏に購入した服種について枚数を調査した結果、Tシャツ、スカートが多く、つぎにブラウス、ワンピース、ジーンズの順になっている。特にTシャツの利用者が多いので購入枚数を調べると、最低1枚で最高25枚購入し、平均購入枚数は6.5枚であった。

#### c. メーカーの選択

Tシャツ購入時の目安としてメーカーを選択する傾向がみられるので、メーカーについて調査したところ名前の挙げたメーカー数は58社におよんだ。その中から一番よく利用するメーカーの名前を挙げさせたところ、1位ジュン((Jun) 30%、2位ロペ (ROPE) 20%、3位バン (VAN) 15%、4位リオ(RIO) 10%、の順位でその他のメーカーのおもなものは、プレイボーイ、東京チャーム、モニ、ニコル、レナウンであった。

#### d. 組み合わせ

着用状況でも報告したように、Tシャツ利用者が多く下衣に着用するものの組み合わせとして購入する場合、1番に考える場合の理由として、Tシャツと下衣の組み合わせを考えるもの72.7%、全然組み合わせを考えないもの20%、時と場合を考えて組み合わせるもの7.3%、と組み合わせを考え購入するものが大変多いことがわかった。

以上の調査結果に基づき、つぎの結論がえられた。

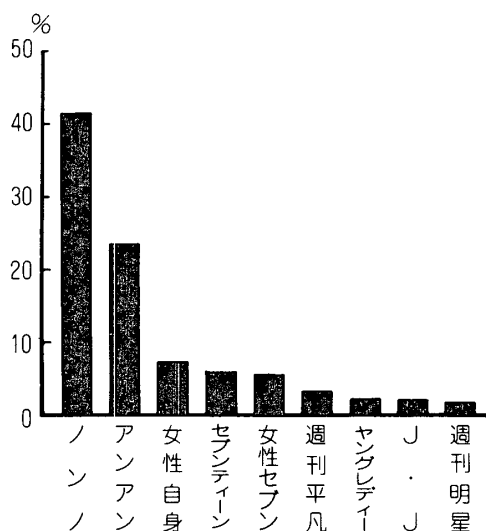


図7 週刊誌の利用度

## 結 論

(1) 1番から5番のデザインの中から学生は流行に敏感であるが、デザインの傾向として、女らしさ、かわいらしさ、活動的、気楽をあげている。

(2) 流行については、自分の体型、個性を考えすぐに飛びつかない、慎重に選択している。

(3) 既制服利用率は非常に高く、デザインにおける服種、選択の基準も高く、ファッションに関する情報の関心度も高く取り入れていることが推察される。

(4) 着装における組み合わせは多種多様で、カジュアルなコーディネートを楽しむ傾向である。

(5) 下着の着用状況は、スリッパ着用者が少数である。これは衛生面、上衣の汚れなどの問題点が残されているように思われる。

(6) 購入時の判断力についてもファッション雑誌が多いが、家のもの(母親)の意見を参考にするものが多い。

以上の点から、調査前は奇抜な服を好む学生が多いと推察したが、服装についての考え方と

して、着用目的を考慮している。また、流行、外観の重視のみでないことがわかった。被服教育担当者として、被服の本質をさらに把握し、正しい判断力を持つ学生の能力を育てたいと思うものである。

最後に本調査に協力していただいた本学学生に感謝します。

#### 参 考 文 献

- (1) 奥山・水梨監修：被服衛生学，相川書房（1976）
- (2) ドレスメーカーキング，7，8，鎌倉書房（1978）
- (3) 装苑，7，8，文化出版局（1978）
- (4) ファッションカラー，78 S/S 日本色研．
- (5) 山口好文編：実用服飾用語辞典，文化出版局（1977）